

科目名	情報システム学入門		
担当講師	宮川裕之		
分類	必修		
時間数	15		
学習形態	オンデマンド／オンラインリアルタイム		
授業の概要	本科目は、組織や社会における「情報システム」を単なる技術装置ではなく、人・情報・判断・価値が相互に関係しながら機能する“構造”として捉えるための導入科目です。DXが進む現代において、真に価値を生み出す情報システムとは何かを理解し、業務や組織の仕組みを「構造的に見直す」視点を身につけます。受講者は、目的・構成・情報・判断・価値の5つの観点から自らの業務や組織を分析し、「構造を描く力」を習得します。		
特色とメリット	・技術知識に依存せず、「構造で考える」基礎思考を身につける。 ・DXを「仕組みの再設計」として理解し、業務改革や組織改善につなげる。 ・次科目「情報×経営による価値創造デザイン」への橋渡しとなる“構造思考の入口”を提供する。		
学習目標	・DXを「人と仕組みの再設計」として説明できる。 ・業務や組織の仕組みを5観点（目的・構成・情報・判断・価値）で整理できる。 ・自職場における「構造のズレ」を発見・可視化できる。 ・構造思考を活用して、業務や組織改善の方向性を示せる。		
内容	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	主題 DXとは構造の変革である 業務を“構造”として描く 構造のズレを見抜く 構造を可視化する 構造の再設計と応用	内容概要 DXの本質を「人と仕組みの再設計」として理解する 5つの観点で業務を構造的に捉える演習 目的・情報・判断のズレを分析し、課題を構造化する ユースケースやDFDなどのモデル表現を体験的に学ぶ 構造思考をもとに再設計の方向性をまとめる
受講の前提条件	システム開発経験や情報系の専門知識は不要。自らの業務や組織を題材に、構造的に考える意欲を持つ社会人を対象とする。		
事前学習	配布資料を通読し、授業で扱う5観点（目的・構成・情報・判断・価値）を自分の職場に当てはめて考えておく。		
事後学習	授業内容を踏まえ、自職場で「構造のズレ」を感じる具体的な事例を300字程度で整理する。（詳細は授業の中で指示）		
参考文献・オンライン科目	・浦昭二、細野公男、神沼靖子、宮川裕之、『情報システム学へのいざないー人間活動と情報技術の調和を求めて』、培風館、1998、ISBN-13:978-4563014025 ・ISデジタル辞典-重要用語の基礎知識-第二版、情報処理学会 情報システムと社会環境研究会編、https://ipsj-is.jp/isdic/		